

# 図画工作科学習指導案

6年3組 28名 指導者 高島芳倫

本授業は、以下の検証を行うものである。

- 市立美術館で美術作品を鑑賞して、そこで気付いたことや学んだことを次の自分の表現に生かすことができるようにすれば、子どもの感性はより豊かになるのではないか。
- 鑑賞活動が表現活動につながっているという実感を子どもにもたせることができたか。

## 1 題材 教えてアーティスト！～美術館作品の鑑賞を生かして～（絵・立体・鑑賞）

### 2 目標

自分の思いを作品に表現するために、鹿児島市立美術館に展示されている作品を感性を働かせながら鑑賞し、そこから気付いたことや学んだことを、自分の作品の製作に生かすことができるようにする。

### 3 題材の評価規準

- 自分の表したい主題をもち、感性を働かせながら美術作品を分析的に鑑賞し、鑑賞して得た感覚的・技能的な情報等を自分の表現に生かそうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】
- 鑑賞活動から発想して、気付いたことや学んだことを自分の作品の主題にどのように生かし、表すかを構想している。 【発想や構想の能力】
- 鑑賞した作品の技能的・感覚的なよさを、自分の表現に生かしながら製作している。 【創造的な技能】
- 美術作品から読み取った情報を文章や絵に表すとともに、友達の作品を鑑賞するなかで自他のよさを認め合い、考えを深めている。 【鑑賞の能力】

### 4 題材について

#### (1) 題材の価値

本題材は、子どもが表そうとする主題を基にして、子ども自ら休日を利用して、鹿児島市立美術館に展示されている作品で鑑賞活動を行い、そこから気付いたことや学んだことを自分の表現に生かして作品を製作、鑑賞する活動である。自分の表したいことをよりよく表現するためという動機の基に主体的に鑑賞活動を行わせ、そこから得た情報を生かしながら自分の主題を色と形で表現していくという喜びを味わわせることをねらいとしている。

この時期の子どもたちは、造形活動において一人一人の特性や傾向がはっきりしてきて、その子らしい主題で表そうとしたり、手ごたえのある材料や用具を使おうとしたりするような特徴が出てくる。また、鑑賞活動においては、自分なりの感じ方や見方をしようとする傾向が強まってくると同時に、他者の立場から見るができるようになる。

本題材の価値は、この時期の子どもの造形活動及び鑑賞活動の傾向を基に、市立美術館の作品を鑑賞して得た情報を自分の作品製作に生かしながら、自分なりに納得のいく作品を完成させるといふ、鑑賞活動が表現活動に生かされていくということにある。また、鑑賞活動の場として市立美術館を利用するが、館内に展示された我が国や諸外国の美術作品からよさや美しさを感じ取る力や、作品展示の仕方や雰囲気等から、それらを大切にしようという態度も育まれるものと考えられる。

#### (2) 子どもの実態と指導

本学級では、図画工作科での表現活動に対する興味・関心は比較的高いが、3割は自分の表現に自信をもてずにいる。その原因の8割以上が、絵に表すことを苦手としていることで、みな共通して「かきたいと思うイメージはあるが、思うようにはかけない」という課題をもっている。また、鑑賞活動においては、友達の作品を鑑賞することは好きだが、自分の作品を見られるのは好まない子どもが7割を超えている。これは自分の表現に自信がないことが原因であると推測される。また、本やテレビ番組等で美術作品を見たことはあるが、芸術作品を鑑賞する目的で市立美術館を訪れた経験のある子どもは1名のみで、美術館という施設を訪れた経験が一度もない子どもが全体の6割という実態である。

このことから本題材では、まず美術館の鑑賞活動で表し方の感じの違いに気付いたり、作者の表現意図等を想像したりする楽しさに気付かせたい。その後の表現活動では、鑑賞したことを生かして創造的に表す楽しさやつくりだす喜びを味わわせながら、そのよさを友達と共感し合うことができるような指導を行う必要があると考える。例えば、前述した「イメージはあるが、思うようにはかけない」子どもには、美術館で鑑賞する際に、自分の課題解決のために、何をどのように情報として得てくればよいかという明確な目的をもたせた上で、「美術館でアーティストに教えてもらおう」と語りかけ、後に意欲的かつ主体的な表現活動へとつながるように働きかける。また、自分の主題を表すために、美術作品から読み取ったことを自分なりに解釈し、自らの表現活動に生かすことができている子どもに積極的に言葉を掛け、励まししながら、学級のみんが表現活動に自信をもつことができるようにしたい。さらにこの題材での学習を通して、表現の自由性に気付かせたり、自他の作品を認め合う心を育んだりしながら、鑑賞活動と表現活動の密接なつながりに気付かせられるような指導を心掛けたい。

5 指導計画（総時数7時間）

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
思いをもつ	<p>1 これまでの表現活動を振り返りながらどのような作品を製作したいか話し合い、自分の表したい主題を決め、その製作意図や表現方法について発表し合う。 【関：自分の表したい主題をもち、感性を働かせながら美術作品を分析的に鑑賞し、鑑賞して得た感覚的・技能的な情報等を自分の表現に生かそうとしている。】</p> <p>2 学習のめあてを捉える。 自分の表したい主題を基に、鹿児島市立美術館で鑑賞した作品から学んだことを生かして表現し、自分らしい作品を完成させよう。</p> <p>自分の表したい主題をはっきりともたせ、どのような情報を得てくればよいかを明確にさせる。また、美術館鑑賞でのマナーを確認し、充実した活動となるように工夫した鑑賞カードを配布するとともに、美術館の学芸員からのビデオメッセージを見せて意欲付けを行い、美術館見学の計画を立てさせる。</p>	1
思いをふくらませる	<p>3 美術館の作品を鑑賞して気付いたことや学んだことや調べたこと等を発表し合い、自分の作品にどのように生かすか構想しながら、アイデアスケッチをする。 【想：鑑賞活動から発想して、気付いたことや学んだことを自分の作品の主題にどのように生かし、表すかを構想している。】</p> <p>自分が表したいものを計画的に表現することができるように、鑑賞した作品のどの点をどのように生かそうとしているのかを図工ノートに記すように指導する。</p>	1
自他のよさに気付く 思いを表現する	<p>4 鑑賞活動で学んだことを生かしながら、自分の主題に沿って作品を製作する。 【関：自分の表したい主題をもち、感性を働かせながら美術作品を分析的に鑑賞し、鑑賞して得た感覚的・技能的な情報等を自分の表現に生かそうとしている。】</p> <p>美術作品から学んだことをどのように生かしているのかを見取り、計画的に表現していけるように支援していく。その際、あくまでも当初の自分の思いを一番に大切にさせ、美術作品の技能的な再現にならないようにする。</p> <p>5 表現の途中で、お互いに作品を鑑賞し合いながら、よりよい作品づくりをめざす。 【技：鑑賞した作品の技能的・感覚的なよさを、自分の表現に生かしながら製作している。】</p> <p>ゲストティーチャーの市立美術館学芸員に子どもの作品解説をしていただき、鑑賞活動と表現活動のつながりに気付かせたり、主体的な活動を更に高めたりする。</p>	4 (本時)
新たな思いをもつ	<p>6 完成作品で学級鑑賞会を行い、自他のよさを認め合いながら、考えを深める。 【鑑：美術作品から読み取った情報を文章や絵に表すとともに、友達の作品を鑑賞するなかで自他のよさを認め合い、考えを深めている。】</p> <p>初めにみんなが自分の主題を表すことができた喜びを分かち合わせる。お互いに作品を鑑賞する際には、作品のよいところを見付け合ったり、自分と友達の感じ方や考え方の違いを認め合ったりできるような手立てや助言を行う。</p>	1

6 本時（6/7）

(1) 目標

市立美術館での鑑賞活動で学んだことを生かして、自分らしい表現に更に自信をもち、主体的に取り組むことができるようにする。

(2) 評価規準

- 自分の表したい主題をもち、感性を働かせながら美術作品を分析的に鑑賞し、鑑賞して得た感覚的・技能的な情報等を自分の表現に生かそうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
- 鑑賞した作品の技能的・感覚的なよさを、自分の表現に生かしながら製作している。【創造的な技能】

(3) 指導に当たって

前時までには子どもたちは、市立美術館での鑑賞活動で学んだことを生かしながら、自分の主題に沿って作品づくりを進めてきている。鑑賞活動では、作品にまつわるエピソードを想像して楽しんだり、作品や作家についてさらに詳しく調べたりしながら、自分なりに製作意欲を高め、学習を深める活動をしてきている。

思いをもつ過程では、まず、これまでのワークシート等を基に前時までの学習を振り返らせ、自分の表したい主題を再確認させる。

思いをふくらませる過程では、どの美術作品の何を自分の作品にどのように生かしているか、理由も含めて数人に発表させ、本時の学習の意欲付けを図る。色や形等の技能的なもの、自分のイメージ等の感覚的なものの両方について取り上げるようにし、子どもが参考にした美術作品の写真を大型画面に写すなどして、発表内容がより分かりやすく伝わる工夫をする。

思いを表現する/自他のよさに気付く過程では、子どもが表そうとしている主題を確かめながら机間指導を行い、自分らしさをより追求できるような言葉掛けを行う。特に、鑑賞してきた美術作品のよさを生かし、自分の表したい思いをよりよく作品に表すことができているという実感を味わわせる。

新たな思いをもつ過程では、ゲストティーチャーに子どもの作品数点を解説していただく。それを通して、表現活動のための鑑賞活動の重要性にも気付かせるとともに、自分のイメージを色や形に表すことができた喜びを味わわせる。

時	過程	主な学習活動と学習形態・教師の手立て・評価
4	思いをもつ	<p>1 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞して学んだことを生かして、自分のイメージを表せているぞ。</li> <li>あの作品のあの表現を、自分の作品にうまく生かせそう。</li> </ul>
		<p>2 本時の学習のめあてをとらえる。</p> <p>友達の作品づくりの中での工夫やよさに気づき、自分らしい作品を完成させよう。</p>
6	思いをふくらませる	<p>3 友達の作品づくりでの工夫やよさに気づき、作品製作への意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〇〇君らしい思いが、画面いっぱいにあふれているね。</li> <li>画面から盛り上げるために、段ボールを重ねて貼り付けたんだね。</li> <li>美術館のあの絵の激しい筆遣いを生かしてかいているんだね。</li> <li>優しさを表すために、あの絵の暖かな光の感じを生かすなんてすごいな。</li> </ul>
		<p>4 自分の思いを基に、作品を製作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや工夫が友達に伝わるように作品を仕上げるぞ。</li> <li>形にしか関心をもっていなかったけど、色も自分の思いに合わせて工夫してみよう。</li> <li>美術館にあった丸い絵を見てから、私らしい作品が生まれてきたよ。</li> <li>あの作品にかかれていた模様を自分の作品の背景に生かしてみたよ。</li> <li>アイデアスケッチしたときよりも、もっと自分らしさが表れてきたぞ。</li> <li>美術館の作品のよさを生かすことで、自分の思いをより強く作品に表すことができたよ。</li> <li>最初に考えた自分の主題から表現がずれていないか、考えてみよう。</li> </ul>
22	思いを表現する／自他のよさに気付く	<p>5 ゲストティーチャーの話聞き、自他の表現のよさに気付いたり、鑑賞と表現のつながりに気付いたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>僕たちの作品を解説してもらおうと、作品が何故か違って見えてくるね。</li> <li>鑑賞することと表現することは、いつもお互いにつながっているんだね。</li> <li>田上小子ども美術館に展示したいな。</li> </ul>
		<p>6 本時の学習について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品を鑑賞し合うのが楽しみだな。</li> <li>友達に自分の作品の解説をしてほしいな。</li> </ul>
3	新たな思いをもつ	

思いを表現することを苦手としていた子どもが、前時までに前向きな気持ちで活動している様子や作品を取り上げ、意欲付けを図る。



この題材の最初に書いた自分の表したい思いを再確認させた後、学習計画表で本時の学習の内容を確認し、めあてへとつなげる。



自分の思いをよりよく表すため、どの美術作品の何をどのように自分の作品に生かしているかを発表させ、学びの実感を共有させる。



子どもが発表するときには、自分の表現に生かそうと選んだ美術作品の写真を大型画面に映し出し、発表内容が伝わりやすくなるようにする。



鑑賞したことの生かし方や作品への働きかけ等、その子どもにしかないよさを見付け、認め励ましていく。



※ 鑑賞した作品の技能的・感覚的なよさを自分の表現に生かしながら製作している。  
(作品・活動)

活動が進んでいる子どもには、より自分の思いを作品に表すことができるよう、教師が準備した美術作品の画集からさらに活用できそうなものを探そう勧める。

活動が停滞している子どもには、その原因を見取り、当初に自分が表したいと思ったことに立ち戻らせたり、鑑賞した美術作品のどこがいいと思ったのか等を確認めたりしながら、自分らしい表現ができるように働きかける。

美術館学芸員の方に、子どもの発想や活用のよさ等を取り上げていただきながら、子どもの作品を美術館の作品のように解説していただく。



鑑賞活動が自分の表現活動をより豊かにしていることに気付かせる。



子どもが実感できるような言葉掛けをすることで、思いを表すことができた喜びを感じさせ、次時の活動へとつなげる。

